

# 令和2年度 群馬大学共同教育学部附属特別支援学校研究実践報告

## 研究テーマ

### 学びを生かし、自分らしく社会とかかわる児童生徒の育成 ～実態把握から学習評価までを見通した各教科の授業づくり～

#### 1 研究の概要

昨年度までの研究（※令和元年度 研究実践報告 参照）を受け、「3観点で目標を設定し、子どもの学びを見取ること」「学習を積み重ね、つながりのある単元の指導計画を作成すること」「本校における授業づくりの手順や方法を確立すること」を課題として捉えました。そして、これらを「学習指導案」や「授業づくりの過程」として具体化することに取り組みました。

具体的には、「主体的に学習に取り組む態度」を含めた、3観点での目標の設定の仕方を確立しました（図1—①、②）。

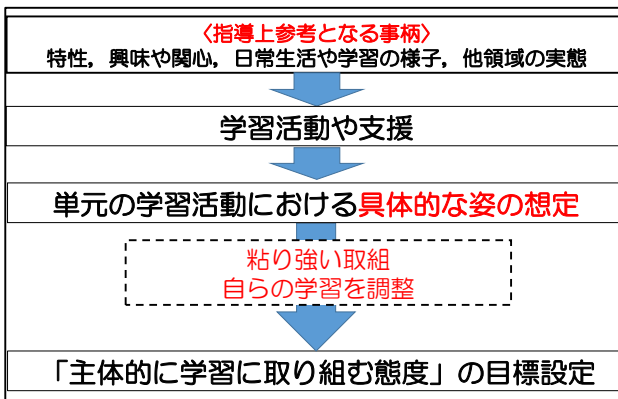


図1—① 「主体的に学習に取り組む態度」の目標設定の考え方

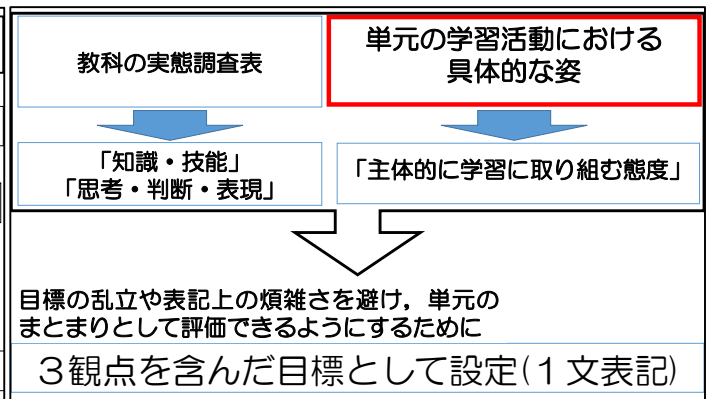


図1—② 3観点での目標の設定の考え方

さらに、学習を積み重ねていくための、単元計画や評価する内容について、学習指導案等に明確に示すとともに、授業づくりの考え方や流れを「授業づくりの過程」（図2）として明確にしました。

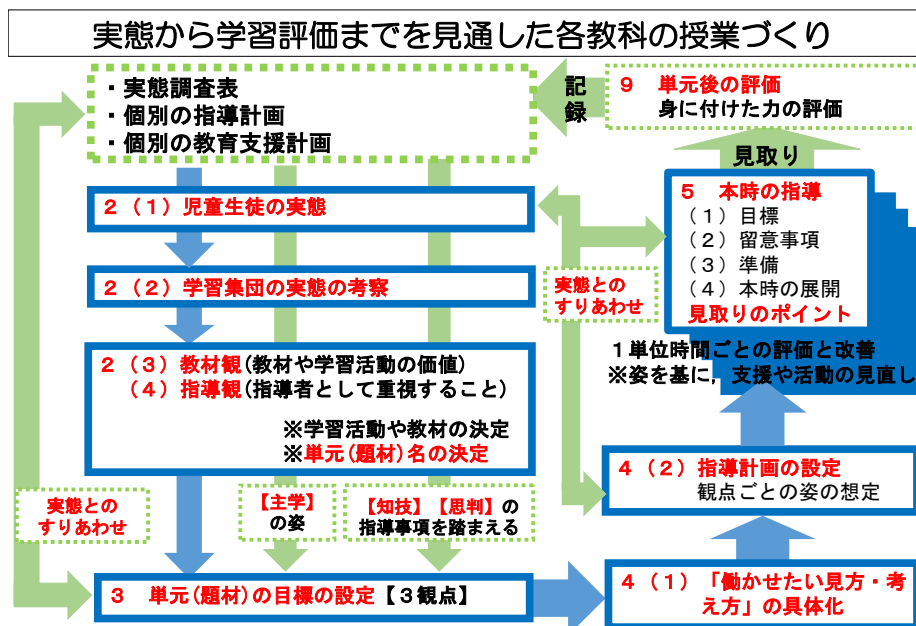


図2 授業づくりの過程

11月20日（金）には、オンラインビデオ会議ツールを使用し、公開研究会を実施しました。このように明確にした授業づくりの過程に沿って、各教科の授業を構想・実施し、その様子を公開しました。そして、こうした授業づくりの考え方について、参会者の皆様と協議しました。（※詳細は [公開研究会実施報告](#) 参照）

## 2 研究の成果と今後の取組

これまでに示してきた本校の研究実践について、公開研究会で出た意見や、その後の校内での考察を受け、次のような成果と課題を見出しました。

### 〈成果〉

- ・捉えた実態を基に3観点で単元の目標を設定したことで、学習活動や支援の設定と見直しにつながった。また、児童生徒を多面的に評価し、どのように学んでいるか、学習の過程についても見取ることができるようになりつつある。
- ・児童生徒が本時でどんなことを学び、何ができるようになったかを観点別に具体的に見取ったり、そうした具体の姿から授業改善をしたりすることができた。
- ・授業づくりについて、学習指導案や「授業づくりの過程」として具体にしたことで、授業づくりにおいて、どんなことを踏まえ、どのような流れで授業をつくり、見直すとよいか、教師の思考の流れが明確になった。

### 〈今後の取組〉

- ・学習指導案や授業づくりの過程の項立てや内容について、実践をとおして更に検討する。
- ・学びが実生活等にどのようにつながるのかを考えたり、踏まえたりして授業をつくる。
- ・「各教科等を合わせた指導」の授業づくりや学習指導案の作成につなげる。

## 3 校内研究授業（2月）について

公開研究会までの研究の成果と今後の取組を校内で共有する中で、次の5点を具体的に考え、実践に取り組んでいく必要があると捉えました。

- ・学習活動や学習課題をどのように設定するか。
- ・授業の流れ、組み立て方をどう考えていくか。
- ・授業のねらいをどのように考え、設定したらよいか。
- ・単元の目標と本時の目標、そして評価について、どのように考え、表していくか。
- ・教育課程上の他の教科や行事とのつながりをどのように整理していくか。

こうした課題を整理し、主に学習活動と目標の設定、単元の計画の設定に焦点をあて、「各教科等を合わせた指導」の授業づくりについて考えていくことにしました。具体的には、2月に研究授業を実施し、「各教科等を合わせた指導」の学習指導案の項立てや、単元の目標設定の仕方等を明らかにすることに取り組みました。

実際の授業では、ビルクリーニング作業（中学部 **写真1**）、ハーバリウム製品作り作業（高等部 **写真2**）の作業学習2授業を実施し、授業中の生徒の姿や授業の実際から、実態と指導内容、実態と目標、目標と活動や支援のつながり、単元の目標をどのように設定するとよいか等について考えていくこととしました。



写真1 ビルクリーニング作業（中学部）



写真2 ハーバリウム製品作り作業（高等部）

中学部のビルクリーニング作業では、個々の実態を基に、職業・家庭科と国語科や自立活動の指導内容を関連付け、窓拭きや床清掃などの具体的な作業内容（活動内容）を基に単元の目標や本時の目標を設定しました。

高等部のハーバリウム製品作り作業では、職業と数学などの指導内容を関連付け、個々の実態や扱う指導内容から、色砂の重さを量ったり、シートに花を貼り付けたりする作業を分担しました。

授業では、作業に自分から取り組んだり、目標に迫ったりする姿が見られました。このような姿から、授業後に行った授業研究会では、次のような意見が出ました。

- ・個々の支援具が充実しており、子どもたちがよく動き、作業していた。
- ・それぞれの役割や作業が明確になっていた。
- ・生徒が目的を持ち自分から作業できるとよかった。支援具の活用と精選ができるとよかった。
- ・場面や環境設定を工夫したり、意図的に設定したりして、本時の目標や関連する指導内容を評価できるとよかった。

このような意見から、実態を詳細に捉えたことの良さを再確認しました。これは、今年度までの授業づくりにおいて重視してきた点が、生かされたことだと考察しています。

一方で、作業学習をとおして、何を学び何ができるようになったかを見取るためには、実態と単元の目標、単元の目標と指導内容、目標と学習活動の相互のつながりについて、授業づくりの段階からしっかりと考えていく必要があったと振り返りました。また、実際の授業において、目標や指導内容に即した活動や場面を設定し、それぞれの教科の指導内容や観点で見取ることができるようにしていくことも十分ではなかったと振り返りました。このことは、次年度に向けて、継続して取り組んでいくべきことと捉えています。

#### 4 次年度に向けて

校内研究授業をとおして、「各教科等を合わせた指導」の授業づくりについて、実態と指導内容、そして目標と活動とのつながりについて、もう一度どのように考えていくか、見直す必要があると考えています。また、学びを見取るための指導計画や本時の学習活動の設定、道徳や自立活動の取り扱いについても考えることが大事だと考えています。

次年度は、本校でこれまで取り組んできた、実態把握や教科の授業づくりの考え方を生かしながら、目標設定、指導内容、指導計画、評価などをキーワードに、「各教科等を合わせた指導」の授業をどのように考えていくとよいかを整理し、こうした授業づくりの考え方を、学習指導案や授業づくりの過程として本校の考えを明確に示したいと考えています。そして、研究主題である、「学びを生かし、自分らしく社会とかかわる児童生徒の育成」につながるよう、日々の授業実践や教育課程の見直しに取り組んでいきたいと考えています。